

■ 島根県公立大学法人評価委員会からの平成22年度業務実績に関する評価を受けての改善策

評価委員会からの「大学の教育研究等の質の向上」項目に対する評価の遅れている点(課題がある点)	島根県立大学の改善策
<p>●松江キャンパス総合文化学科において、TOEIC受験者の2年次平均スコアを1年次平均スコアより30点以上増加させる目標が達成されていないため、達成するよう学生の学習支援策について検討されたい。【No.44～47】</p>	<p>今年度においては、受験者の得点の状況を詳細に分析を行い、学習支援・指導に当たってのポイントをまとめた。 今後は、1年生後期までの英語力向上を重点ポイントととらえ、指導を強化する。特に1年生対象の「多読演習A」「多読演習B」を新規科目として設け、幅広い英語力の学生が、基礎固めから発展的英語学習へと着実に英語力をつけていけるような指導をしていく。 また、英語力向上を測る指標については、実力を正確に分析できるものを採用するよう改善した。これまでは最終回の試験だけを受験した学生の点数も平均点に組み入れてきたが、実質の学力向上を測る点数とはいえないので、その点を改め、1年2年の試験で対応するデータのみ取り出して平均値を比較したところ、英語力が着実に向上していることが判明した。今後は、この指標に基づき実力を測定し、さらに適確な学習支援を目指したい。</p>
<p>●FD活動(研修会等)への年1回以上の参加率が目標の90%以上を達成されていないため、参加率の低かった浜田キャンパスにおいて、研修会等への参加を促されたい。【No.64】</p>	<p>できるだけ多くの教員が参加できるよう、研修会の開催日時を教授会後に設定するなど考慮するとともに、DVD視聴研修など実施方法についても工夫を行い、参加率の向上を図ることとする。</p>
<p>●授業料減免制度について、意欲ある学生が修学しやすい環境づくりという観点から新制度設計を実施したが、制度周知・運用の詰めができていなかったため、制度開始時期が遅れた。【No.88】</p>	<p>平成23年度において、新制度に係る運用方法を定め、また、新制度の周知・PRを行い、平成24年度新入生から新制度を適用することとした。</p>